

## 日韓共同インターゼミ “初等教育における日韓の英語教育について”

環境情報学部 2 年 渡辺吉鎔研究会 朝鮮語 SA

野田 一貴 70746146 t07614kn@sfc.keio.ac.jp

渡辺研究室参加者：計 7 名

### 1. 導入

毎年夏季と冬季の年に二度、我々慶應義塾大学の渡辺吉鎔研究会では韓国の高麗大学日本語学科の有志の学生たちと延世大学の政治外交学部の学生たちと有益な国際交流の場として毎年テーマを決めてそれに基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行っている。

今回のテーマは初等教育における日韓の英語教育についてである。グローバル化が進んでいる現代社会では、英語を必要とする様々な場面が増えている。当然の様に大学入試においても英語の語学能力を求めるケースがあり、更に企業に就職する際にも英語の語学試験の点数を基準として社員を選出するのが現実である。

### 2. 研究背景

前回のインターゼミにおいて韓国の学生と話した際に英語の語学能力の差を感じたと同時に、その背景として日韓の英語の教育政策が大きく違うことに気づいた。例えば韓国では小学校で英語教育が義務教育であるなど、日本よりも遥かに英語に力を入れている。その結果として TOEIC のスコアを見てみると、日本と韓国のスコアには歴然とした差があるのが現状である。このように、英語を母国語としない両国において、今後急速に進む国際化における英語教育への対策案を考えたり、政策を見直したりする等して、政策提言をしていきたい。

### 3. 目的・手法

日本と韓国、双方の国の英語に対する現状・政策・学校での取り組みなどをプレゼンテーションによって理解した上で、日韓の学生の英語教育に対する考えがどのようなものであるのかということ調べるために数名の班に分かれてワークショップを行い、最後にその内容を発表しあうという形式を取った。

### 4. 日韓共同インターゼミ活動報告

(1) 延世大学 政治外交学科

日時：2009. 2. 13 15:00~18:00

場所：延世大学

参加者：政治外交学科の学生 計 7 名



図1 高麗大学でのプレゼンテーション

内容：全 2 部構成されており、日韓の英語教育に対する理解を深めるため、第 1 部では図 1 のように慶應大学がプレゼンテーションを行い、日本の初等教育における英語教育の導入の是非やメリット、デメリットについて紹介した。また日本よりも先に初等教育における英語教育を実施している韓

国の具体例を挙げた。

また第2部では、図2のように既に初等教育で英語教育を受けてきた韓国の学生たちに対して3つの質問を行った。

- ①初等教育において英語教育は必要と考えるか。
- ②韓国の初等教育において英語教育は成功したと言えるか。またその理由。
- ③近い将来英語は日本と韓国で公用語となりうるか。

(1)高麗大学 日本語学科

日時：2009.2.14 14:00~17:00

場所：高麗大学

参加者：日本語学科の学生 計10名



図2 延世大学でのディスカッション

内容：上記とほぼ同様のもの。

## 5. 結論

- ・小学校だけではなく、中学校、高校と連動してカリキュラムを **improve** させるべき
- ・小学校卒業時にどの程度のレベルにするのかという明確な目標設定が必要
- ・教員の育成（フォーラムなどを開く）（文部科学省によるサポート）
- ・理想とされる授業内容や進度の指標を定

めるべき

- ・子どもが英語を嫌いにならない、ということが大切

□最終的な目標

自国や、自己を表現し、世界に発信できる英語力を養う

## 6. 最後に

高麗大学と延世大学とのインターゼミにおけるプレゼンテーションやワークショップを通じて感じたことは、韓国の初等教育における英語教育は一概には成功しているとは言えないようだ。故に、日本で初等教育における英語教育を成功させるためには、今回のワークショップで挙げられたような問題点を改善する必要がある。

このインターゼミを終えて、今回参加した日韓の学生は改めて英語教育を見つめ直すと共に、英語に対する苦手意識を極力減らし、常日頃から英語に接する機会を設けることが大事である。

そして、最終的には受験英語に留まらない「Practical English」を見に付けることを目標とすべきである。

## 7. 謝辞

今回のインターゼミも高麗大学と延世大学の学生をはじめ、普段研究会においてご教示いただいている渡辺吉鎔教授、また、インターゼミを金銭的にサポートしていただいた湘南藤沢学会シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金に深く感謝致します。今後とも御指導御鞭撻賜りますように宜しく御願ひ致します。